

平成 28 年 8 月 29 日開催 本山町景観審議会 議事概要

1. 開催日時

平成 28 年 8 月 29 日（月） 午後 2 時から午後 3 時 35 分

2. 開催場所

本山町プラチナセンター

3. 出席委員数

委員：12 名（全員） 事務局：4 名 委託業者：(株)第一コンサルタンツ 4 名

4. 会議に付した事項

(1)土佐本山橋の色の選定について

5. 会議の概要

【委託業者説明】

前回の審議会において、色彩選定方法については本山町景観計画に準拠すること、色の決定はアンケート結果を参考に本審議会で決定すること、色系統はアンケートと設計で検討された中から最終的に桜色・棚田色・樹木色の 3 色に絞り込まれ、単色とすることが決定している。

今回は、前回抽出された 3 色から 1 色を選定する。彩度については本山町景観計画において 10 未満とするよう定められており、抽出された 3 色の色彩モデルを作成した。

【質問】 ワイヤーの色は固定なのか。ワイヤーの印象も大事なことだ。

→ 変更は可能であり、極力目立たない色にするのが望ましい。

【質問】 色の退色について、どれくらいもつのか。

→ 本山町の環境であれば 60 年程度である。現在は橋梁の長寿命化修繕計画において表面の塗装が剥げた時点で維持修繕が義務付けられている。

【質問】 提案した色は基本的に色褪せによる変化はないということで良いか。

→ 汚れなどの影響はあるが退色などの大きな変化はない。

【意見】 土佐町にも赤色の橋が架かっているが、少し白っぽくなっている。退色について大きな変化はなくとも傾向として白っぽくなるということは考慮したほうがよい。

【質問】 どの程度で塗り替えが必要なのか？

→ 町内にある東大橋については 30 年周期で塗り替えを行っているが、現在は塗装の系統が変わっており、今の基準にでは退色については 60 年を目安としている。

【質問】 桜色・棚田色・樹木色について資料の数値など色合いについてどのように作成しているのか。

→ ソフトのマンセル値の値によるものである。資料と色彩モデルを比較すれば違いが判別しやすい。

【司会（会長）】

色彩モデルの確認を行っての色の印象を含め各委員の意見を求める。

- 【意見】** ○アンケート中において桜色が最も支持されており、決定となった場合の説明も容易である。色の濃さについては濃い目がよいのではないか。
- 選定した理由について説明のできるものがよい。
 - 季節などにより周囲の色合いなどが変かすることも考慮して決定してはどうか。
 - 樹木をイメージしたものは暗い印象がある。絞り込むのであれば棚田や桜のイメージと感じている。
 - 背景とマッチした棚田系のような色が合うと感じる。
 - 色相に関しては、住民の方々や審議会の委員の意見要望に合わせた方がよい。色の明るさについては高齢者の白内障への配慮など考慮し、明るすぎず暗すぎない程度がよい。推奨明度は8~9。メンテナンスについて、水垢は灰色のものがつくので筋が入ったように見える。彩度に関しては実際に塗装すると見本よりも鮮やかに見えるので、少し抑えた方がよいのではないか。
 - 橋も含め背景など全体を見て考えると3色とも良い。背景にマッチし、ある程度目立つものと考えたと個人的には桜色がよい。
 - 本山町は森林、桜、棚田とあり判断が難しい。可能な限り退色問題などがでないように検討してもらいたい。現状としては桜色が本山の桜ということで誰にでも説明が付きやすいと感じている。
 - 各色の魅力はあるが、第一印象としては桜色がよいのではないかと率直に思っている。「本山町といえば桜の町」というドラマ性もある
 - 明るい色よりは一段階明度を落としたほうがよい。
 - 山の雰囲気の中で桜色にすると目立つのでシンボルという意味合いとしてはよいが、長年見ることになるものであり、慎重にならざるをえない。次回の審議会で桜と緑系で決め、緑ならばどちらにするかという形で慎重を期してはどうか。彩度等については、どれもカラーライトアップをした際に色がでやすいものであるので色彩モデル程度でよい。

【司会（会長）】

意見をまとめると桜色か棚田色となっており、町の人が印象として決めたらよい。その上で彩度、明度については高齢者への配慮や視認性など様々な問題があるので、推奨値は出ているが慎重を期して更に色見本を作ってはどうか。桜色は目立ってよいという意見と飽きるのではないかという意見が出ている。そのことについて意見はないか。

【意見】 ○桜色に見合うよう、将来的に周囲も整備できればよい。

- 緑色については類似した橋があちこちにあるのは事実。ピンクは意外と少ない。町のイメージということも考えていかなければならない。
 - 昔は赤や青の橋が多かったが、近年山間地域は特に景観への配慮で緑が多様されている。周辺環境とのマッチであれば緑、シンボル性でいえばピンクと考えている。

【司会（会長）】

「本山といえば桜」のイメージということだが、住民への説明に関してはどうか。

【意見】 ○桜の数も減っており、今は棚田を売り出しているという事実もある。

- 桜色についてはさくら市などと絡め愛着が湧くと感じた。明度、彩度は安全性と長年見ることになるという公共性からも低彩度がよい。桜色に賛成である。
- 色合いは桜と棚田を選び、彩度と明度については推奨される数値の範囲内で改めて色彩モデルを作成し判断するのが大事ではないか。

【質問】 今回の審議をベースとして次回決定するということは可能か。

- 色合いに加え明度、彩度についてもいくつかのパターンを提案したうえで次回決定するということは可能である。

【意見】 本山小学校の外壁の明度、彩度を測り、それを参考により具体的に絞って考えてはどうか。

→ 本山小学校の外壁について測色したところ明度が 9.2、彩度が 1.0。これを参考に色彩を検討していただきたい。

【司会（会長）】

町のコンセプトに合い住民への説明のしやすさを考慮し、色については桜色と棚田色から選定を行う。四季による印象の変化や、高齢者への配慮をした場合、今日この場で決定をするのは困難である。桜色と棚田色について彩度、明度の推奨値を考慮し各色 3 種ずつ色彩モデルを作成し次回審議会にて検討してはどうか。

→ 住民の皆さんの意見やアンケートを尊重し、次回には決定となるのではないかと考える。委員全員の出席をお願いする。